

発行所 医療法人財団五省会西能病院 〒930 富山市五福1130 TEL (0764) 41-2481(代) 発行人 西能 正一郎

五省会ニュース

五省会 一、至誠に情をなかりしか 一、言行に恥ぢるなかりしか 一、氣力に衰ふるなかりしか 一、努力に減みなかりしか 一、不精に怠るなかりしか

地域に密着した医療を推進

大山 馨氏を内科部長に迎える

評価される研究実績

19年余、県立中央病院の内科部長



大山内科部長

きめ細かい医療サービスに努めている西能病院は、内科部門の充実を目指して、富山県立中央病院の内科部長だった大山馨氏を四月一日から内科部長として迎えた。大山部長は「バランスの取れた内科を作るために努力して行きたい」と語っている。西能病院の内科医師団は、大山部長を迎えて、呼吸循環器部長、吉野武氏、富田美樹氏(富山医大から出向)池本雅仁氏(同)の強力布陣となり、地域に密着した医療をさらに推進していくこととしている。

大山部長は、今年三月末、県立中央病院を退くまで、十九年余の長きにわたって同病院の内科部長を務め、脂質、腫瘍などの研究実績が高く評価されている。研究歴のいくつかをあげてみる。昭和三十八年から三年間にわたり、脂質研究についてN・I・Hの研究助成金をうける。

「バランスの取れた内科を」

大山部長の話

西能病院に務めてから五十日あまりで、まだ十分に病院の事情は解りませんが、内科に関していえば、機能を十分に発揮するには未熟な点が二、三目につきます。バランスの取れた内科を作るために皆さんと共に努力して行きたいと考えています。

昭和四十六年から三年間、千代田生命厚生事業助成金をうける。「日本人の食生活の変化にともなう血中脂質、糖尿病、血心疾患の出現状態の推移について」昭和四十九年から現在まで、日本化学療法学会抗腫瘍剤開発研究会委員として抗腫瘍剤生物学的開発に参加している。

昭和五十二年、児玉実博士(富山化学総合研究所長)と共にリゾレンチン、リポゾームを開発。抗腫瘍効果について、斉藤先生(癌研究会、病院長)浦井昭教授(東北大学抗酸菌研究所)の世話人のもとで臨床開発中、現在、第二相試験を行っている。

西能病院が内科外来の診療を開始したのは昭和五十四年四月。同五十八年三月、第三期増改築工事を完了、病床が百八十五床になったのを機会に内科を充実、内科病棟を新設、現在に至っている。

大山部長の略歴 大正十三年二月十三日 北海道生まれ、昭和二十年九月金沢医科大学医学部卒業、二十三年六月金沢医科大学結核研究所助手、二十六年四月医学博士、二十六年十月富山県立中央病院内科医員、三十四年一月アメリカに留学(二年間)、三十六年四月同病院内科医長、三十九年十一月アメリカ留学(六ヵ月)、四十五年一月同病院内科部長、四十八年四月ガンセンター部長兼務、五十八年富山県理事、富山県健康増進センター副所長兼務、平成元年三月退官。

あすなろ

九十八歳で亡くなった梅原龍三郎画伯は晩年、白内障でほとんど目が見えなかつた。その病床を見舞った中川一政画伯に「こんな話をしたぞうだ」

「けさ、庭に真っ赤な紅葉があつて、その下にカドミウム・グリーンの色がある。空は明けようとしている。赤と緑と黒の三色を次々と置いていけば画ができる」中川さんは「あの人は心で見て、いつも空(くう)に画を描いていたのだと思う」といつている。その中川さんは今年九十六歳。なお絵筆を持ち続けている。彫刻家の故・平橋田中さんは百歳を超えても制作を続け、これから二、三十年も乾燥させねばならぬ材料の木を買い集めていたという。そこに芸術家の、凡人と違う気迫をみるが、それだけでなく一般に昔の人は常に遠くを見つめて生きていたように思う。これに比べ現代人はどうも目の前のモノとかコトにばかりこだわっている気がする。政治家にしても、すぐ手近な金と権力に目を奪われて、昔の人のような理想を追い求めるまなざしがない。結婚式で「夫婦はいつもお互い見つけ合つて生きろ」というような祝辞を聞くことがある。しかしそれは恋愛中のこと。夫婦が歩き始める時、見つめねばならぬのは同じ方向の遠い未来だ。人間どうすれば幸せになれるかにアランの「幸福論」はこう答えている。「遠くを見よ」。

職場に溶け込んで

新人12人の抱負

職場の気風に胸襟を開いて早く馴染み、担当の立場から経営理念の実践を目指して微力ながら尽力する所存であります。(経理部 上野佳泰) 常に向上心を持って 働くことにはならないよう、うことにならないよう、(事務部 中川昌子) 初心を忘れることなく、私自身の職業に対する意識を高め、常に活力のある人間であるように心掛けていきます。(パラメディカル部 塚田克雄) どんな時でも、優しさと笑顔で大切にします。(看護部 河原洋子) 新しい環境に適應し、プロ意識を忘れず知識、技術の向上に努めます。(看護部 山本信枝) 患者さんの立場で、安も多ですが、早く職場になじみ、患者さんの立場に立つて看護したいと(看護部 後田千鶴) 看護婦として、一日も早く環境に慣れ、チームとの調和を図り、技術や看護の心を習得出来るよう一生懸命努力します。(看護部 講神直美) 一日一日を大切に 今の業務に役立て、生きた看護を目指し、一日一日を大切にがんばります。(看護部 原田五月) まず体力が第一 忙しい中で、まず体力が第一。まわりの人々に迷惑をかけぬよう努力します。(看護部 山本信枝) 新しい環境に慣れて 学生時代から看護婦を夢みていました。今看護学生として第一歩を踏み出し、新しい環境に慣れるよう頑張ります。(看護部 杉本春美) やさしい気持を大切に にはげみ、技術を多く身につけ、やさしい気持を大切に一生懸命がんばります。(看護部 二塚はるか) 何ごとにも挑戦して と勉強を両立していくこととは、大変だと思いますが、何ごとにも挑戦して、頑張っていきたいと思います。(看護部 前田紀子) 色々なことを吸収して 看護学生として、業務に慣れるまでは大変だと思いますが、色々なことを吸収していく気持ちで頑張ります。(看護部 松井品代)

Tシャツの思い

西能 竝

昨年十月、私が院長に就任して三ヵ月を経過したところ、医療法人西能病院のTシャツが完成した。丁度そのころ、富山市主催の綱引き大会出場のため、ユニホームを作る話が持ち上がった。一部の出場選手のユニホームを作るよりは、全職員が揃って着用できるTシャツを作ることにした。早速、デザインの院内公募と決定、そして業者へ

積極的なスポーツ参加を

汗と笑いのある病院づくり

幕と決定、そして業者へ一発注と作業がすすみ、二種類のTシャツが完成した。綱引き大会には、西能病院のマーク入りTシャツで選手も応援団も胸を張って参加したのは痛快であった。

Tシャツを作ることは、かねてから考えられていたが、病院の立場から適当か否か、思い悩んでいたが、それなりのメリットが期待できると考え

楽しく、活気ある職場を目指す時、時間を活用して、皆で、スポーツに興ずることも重要である。一方、私達医療人は、多くの患者さんに接し、健康の重要さを十分に感じてはいるはずであるが、なかなか自分の健康管理に気配りがなされていないのではなかろうか。

活気ある病院作りには、個人の健康作りのためにも、積極的なスポーツ参加をすすめたい。その時、

製作を決定した。まずは、職員の団結心と自覚の高揚である。各種のスポーツ大会や、レクリエーションの集いに揃いのTシャツで参加する時、職員間の仲間意識が高まり、又、責任ある行動が期待できるであろう。

当院では、休日診療や夕方の方の外来診療を実施しているためもあり、また、スポーツやレクリエーションに汗を流す機会が少なく、又、積極的な企画もまだまだ不十分である。

もう一つのTシャツへの期待は、PR効果であった。地域活動やレクリエーションに、揃ってTシャツを着用して参加すれば、それなりのPRが期待できる。又、このTシャツは、職員以外にも患者さんや来院される方にも利用して頂くように院内の売店にて販売している。街のあちこちに当院のTシャツがお目見えする日を楽しみにしている。

Tシャツを作ることはさほど大きな事業ではないが、私の院長として形のある、病院の活性化、スポーツの推進、そして病院のPRと、欲ばりな効果を期待したわけであったが、残念ながら、秋から冬に向かい、Tシャツは冬眠に入った。

今や、北陸も薫風さわやか、すでにスポーツシーズンに入り、Tシャツの活躍する季節である。互助会の協力を受け、皆が参加できる行事が企画され、汗と笑いのある病院づくりを望む次第である。(西能病院長)

新しい息吹きを

⑦

医療相談室では、専門の方からの相談を受け、門の職員である医療ソーシャルワーカーが、行っています。患者さんや、その家族 病气やけがにより生ず

医療相談室



来院者の相談をうける今井ソーシャルワーカー

病院だより

四月

一日 五階ホールで新入職員十三人の入職式。理事長と院長が訓話。
一日 六日 五階小会議室で新入職員の研修。
花見の会を
入院患者さん



松川べり、富山城跡公園を遊覧、護国神社で参拝したあと桜花の下で茶会を賞味した。(写真左)

十一日 小会議室で誕生会。該当者八人。
十七日 五階ホールで退職者と新入職員の歡送迎会。
理事長が盲学校で講義
十八日から西能理事長がボランティア活動として、県立盲学校専攻科で「整形外科」の講義。毎週一回の予定。
二十二日 五階ホールで健康教室。山本看護部長が「たのしく健康体操」で「氣功法」を指導。
二十六日 富山市体育文化センターで開催の富

五月

九日 五階小会議室で誕生会。該当者十八人。「みどり会」を強化
九、十日 看護部が中心になり他部署にも呼びかけた「みどり会」の催しが、七十人参加して、富山観光ホテルで開催され、会長に川西信子、副会長に金谷智恵子、

あらゆる問題の解決に援助 安心して治療に専念できるよう

る様々な問題は、誰に相談したらよいのか判らないことが多く、また、どんな制度が利用できるのかがよく判らない事があります。そういった問題が発生した時に、何らかの解決策を指示するために設けられています。実際、相談の内容は、様々な分野に及んでいます。例えば、身体障害者福祉、老人福祉、保険年金などの制度や法律に関する問題や、家族、地域福祉などの人間関係や社会生活を営む上での問題などが持ち込まれます。また受診や入院に関する相談も受け付けています。これらの問題の解決のために、いわゆる社会資源や、きびしい福祉行政の中から、その人が利用できる制度をピックアップして紹介をしています。そして、手続きをするにあたって、援助を行っていただきます。

医療相談室での仕事は、医療の場において直接治療に関わるものではありませんが、病院の中では、医療に最も近いところでのサービス部門だと考えています。医師、看護師をはじめ、各部署の職員との連携を持ちながら、精神面で弱っている患者さんが、一人でも多く安心して治療に専念できるように援助していきたいと考えています。相談内容に関しては、秘密厳守を原則としてご利用下さい。

(医療相談室 医療ソーシャルワーカー 今井勝憲)

和気あいあいの合唱

患者さんたちの歌の会



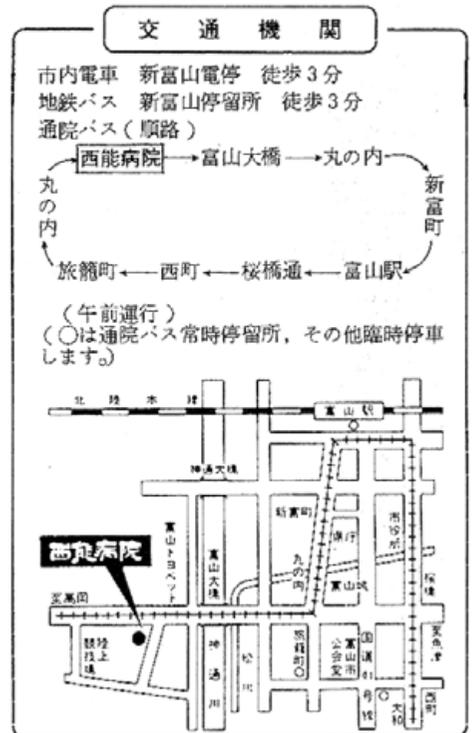
和気あいあいの合唱が会場に響きわたる。長期入院の患者さんになごんでもらおうと、三階慢性病棟(津田勝美婦長)が企画、地域医療チームの協力による「歌の会」(写真)が五月六日午後三時半から一時間に行われ、五階ホールで開催された。(二月二十五日から毎週土曜日に)参加した患者さんは三十人。車椅子、歩行器、杖の姿も見られ、みんなニコニコ顔。地域医療チームの安川主任が指揮棒を握り、患者さんたちが歌を歌い、感想を聞いてみると、「とても楽しい。時間がたつのも忘れた」「病院で歌うなんて思ってもみなかった」「忘れていた若かりしころの歌を思い出して懐しかった」「大きな声で歌ったのでスッキリした。腹もへった」など。

「昔の歌が懐かしい」
終わっても拍手が止まらず、まだ歌いたいといった様子。感想を聞いてみると、「とても楽しい。時間がたつのも忘れた」「病院で歌うなんて思ってもみなかった」「忘れていた若かりしころの歌を思い出して懐しかった」「大きな声で歌ったのでスッキリした。腹もへった」など。

なお折り紙(木)将棋(月)の会も開いている。

休日返上の診療体制

休日	曜日	午前	午後
整形外科科 リハビリテーション科 内	日祝祭日	8:30 ~ 12:00	13:30 ~ 17:00
整形外科科	月 ~ 土	8:30 ~ 12:00	16:00 ~ 19:00
リハビリテーション科	月 ~ 土	8:30 ~ 12:00	13:00 ~ 19:00
内科	月 ~ 土	8:30 ~ 12:00	15:00 ~ 17:00 (火・金曜日は15:00~19:00)
スポーツ医学	水・土曜日	※スポーツ障害の治療やスポーツ相談	
神経内科外来	木曜日		13:30 ~ 17:00
呼吸循環器科外来	月曜日	※心臓病疾患、腎臓疾患でお困りの方はご利用下さい。	
泌尿器科外来	土曜日		13:30 ~ 17:00
形成外科	月1回	8:30 ~ 12:00	※診療日は受付でおたずねください
在宅診療	金曜日	※(在宅酸素療法を含む)	
			13:30 ~ 16:00



整形外科科
リハビリテーション科
内 **365日 年中無休** です **救急出動 OK**
もし、救急車が必要でしたら、連絡して下さい。お迎えに上ります。常時2台待機しています。